

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・スキルタイムの充実を図る ・教科担任制による授業の充実を目指す。 ・学習習慣の定着を図る家庭学習の充実	重点研究などを通じて授業力を上げてきているが、基礎学力については、もっと向上を図り学ぶ力の育成を継続していきたい。	A ⓐ C D
2 豊かな心	・困ったときには友達や先生が応援してくれ、いじめや仲間はずれがないようにする。分かっていたり楽しくできる楽しさや人との出会いや友達ができる楽しさみんなで活動する楽しさが実感できるようにする。	子どもたちが抱えている課題に適時対応してきているが、特別支援の観点から、個に応じた取り組みをさらに進めたい。	A ⓐ C D
3 健やかな 体	・家庭・保護者と連携して規則正しい生活習慣を身につけ、体力向上1校1実践「なわとび」を通して体力の向上を目指すことを育てていきます。	休み時間や体育の学習の中で体を動かす楽しさを伝えて励みになるような活動を進めることができた。	A ⓐ C D
1 教育課程 学習指導	・年間を見通した計画をたて学習内容と評価基準を明確にしながら個に応じた指導を重ね評価・評定をしていく。	学ぶことの楽しさが伝わる学習の計画を立てて取り組んできたが、より精選し、授業の充実を図らなければならない。	A ⓐ C D
5 児童指導	・児童に対して全教職員がぶれることなく指導できるように特別支援教育校内委員会の充実を図り豊かな心の育成を図っていく。	毎月、スタンダード推進委員会を行い、子どもの指導に関わることを確認を行い、改善してきた。	A ⓐ C D
6 特別支援	・I Pアセスメントを活用した児童理解を中心とした従業づくりを校内研究として積極的に取り組む。	学級づくりに生かし、授業に活用しながら研修を進めることができた。	A ⓐ C D
			A B C D
人材育成 組織運営	・教職員が互いに研鑽し、指導力を高めあえることができるようにする。授業研とワークショップ型の研究会を中心とした校内研究会の充実を図る。経験7年以下の教員を中心とした校内研修の場「金曜の会」を実施する。	職員会議や、研究会で話し合いを十分行いながら、意思疎通を図ってきたが、さらに細部の確認、活動の意味などを周知できるようにしたい。	A ⓐ C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	特別支援教育を中心にして校内研修会を充実させた成果や長年取り組んでいるスキルタイムでの徹底ルールの徹底ぶりにより、児童たちの学習態度は落ち着いている。授業参観を年三回ほどきているが、のびのびと学習しているので、中学にも引き継いで生きたいと思う。		
学校関係者 評価結果	学習参観で見せるこどもの発表は大変内容があるので、プレゼンなどの表現方法をもっと工夫させるよい。学校からの発信は工夫して無理なくやるとよい。挨拶はさらにしっかりできるように指導を期待している。		
評価結果に 対する 学校の見解	・次年度も特別支援教育を柱に、こどものよりよい成長を見守り、育てていけるような手だてをしっかりとっていききたい。教職員自ら明るく挨拶するなど、スタンダードの再確認を進め明るく元気な学校づくりを進めていく。		
学校経営 中期目標 達成状況	・今年度は、継承と評価の年であった。スタンダード推進部からの提案を受け、学校の今を見つめ直してきた。その意味においては、確実に新たな学校のスタイルを見つけてきている着実に歩みを進めることができた年であった。		

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	スキルタイムの充実を図る。教科担任制による授業の充実を目指す。学習習慣の定着を図る家庭学習の充実。	児童の基礎・基本の力を高めるために国語・算数を中心とした指導の充実を努めてきた。家庭学習の定着については、今後も継続的な取組が必要である。	A ⓐ C D
2 豊かな心	困ったときには友達や先生が応援してくれ、いじめや仲間はずれがないようにする。分かっていたり楽しくできる楽しさや人との出会いや友達ができる楽しさ、みんなで活動する楽しさが実感できるようにする。	常に全職員で児童の情報共有を図り、配慮すべき事柄には迅速に対応している。特別支援教育の推進に今後も取り組み、個に応じた指導を徹底し、自己肯定感を高めていきたい。	A ⓐ C D
3 健やかな 体	家庭・保護者と連携し規則正しい生活習慣を身につけ、体力向上1校1実践「なわとび」を通して体力の向上を目指すことを育てていく。	児童の体力向上を目指して全校による「大なわ」、水泳、特別クラブのサッカー、子ども駅伝の参加など、様々な活動に取り組んだ。	A ⓐ C D
1 教育課程 学習指導	年間を見通した計画をたて学習内容と評価基準を明確にしながら個に応じた指導を重ね評価・評定をしていく。 【べんきょう】	個に応じた学習内容の定着、ユニバーサルデザインを取り入れた指導法の工夫改善等に取り組んだ。指導と評価の一体化を定着させていくことが必要である。	A ⓐ C D
3 児童指導	児童に対して全教職員がぶれることなく指導できるように特別支援教育校内委員会の充実を図り豊かな心の育成をはかっている。 【あいさつ・マインド】	「太田スタンダード」の徹底を図るほか、児童の日常のあいさつを定着させるための指導に重点を置いた。保護者、地域の協力を得ながら、来年度も継続して取り組みたい。	A ⓐ C D
6 特別支援 教育	Y Pアセスメントを活用した児童理解を中心とした従業づくりを校内研究として積極的に取り組む。 【マインド】	Y-PやZuzieを活用することで、各担任の学級経営や児童理解に役立てることができた。今後も研究を重ねていきたい。	A ⓐ C D
保護者・ 地域住民 との連携	地域コーディネーターを立ち上げ、地域の人材資源を活用し、学校への理解・支援を広げ協働体制を整備する。 【ネットワーク】	地域コーディネーターの活動が始まり、地域ボランティアによる学校支援体制（ネットワークおおた）が整いつつある。体制整備をさらに進めていく。	A ⓐ C D
人材育成 組織運営	推進部や若手教師育成の取組を通して、職員一人ひとりの指導力向上を図る。	推進部（課題解決の場）による月例会議やメンターチームによる若手の育成を着実に進めた。来年度も計画的に推進していききたい。	A ⓐ C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	日枝小学校との音楽交流、共進中学校生徒の職業体験等では児童間の交流が図れた。また小中教職員相互の情報共有や授業参観、中学校の出前授業など、職員レベルでも連携が日常的になりつつある。小中の年間スケジュールの違いに留意しながら、交流や連携をさらに活性化させていきたい。		
学校関係者 評価結果	学校の経営方針や運営は概ね良い。しかし学習指導や児童指導には具体的解決策の見直しが必要である。特に児童の校外でのあいさつの少なさが気になる。地域としても子どもの名前を覚えるなど努力し、学校、保護者とともに子どもたちの心を育てていきたい。		
評価結果に 対する 学校の見解	保護者、地域の評価では、学校経営について数値的には「良い」という評価をいただいているが、文章記述では様々なご意見をいただいている。教職員全体で真摯に受け止め、改善のヒントとしていきたい。あいさつについては社会参加の視点から、児童に「社会参加から入るあいさつ」の大切さを指導していききたい。		
学校経営 中期目標 達成状況	特別支援教育を核とした学校経営は校内の組織整備が整いつつある。PTA、地域との連携も次年度へとつながる道筋ができてきた。来年度は学力向上への取組の具体化と児童指導の質の向上を図りたい。また、校内の人材育成についても、各ステージの教職員が力を発揮できるように組織編成の在り方を見直していききたい。		

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・スキルタイム等の充実により、基礎基本の力の伸長を図る ・学習習慣の定着を図り、家庭学習の充実を目指す。 ・教科担任制、ブロック指導等による、授業の充実を図る。		A B C D
2 豊かな 心	・特別支援教育の推進を核として、個に応じた指導を徹底し、自己肯定感を高めていく。 ・全職員で児童の情報共有を図り、配慮事項には迅速に対応していく		A B C D
3 健やかな 体	・家庭・保護者との連携を強め規則正しい生活習慣を徹底していく。 ・体力づくりを推進する取り組みを通して、全校的な体力の向上を図る。		A B C D
1 教育課程 学習指導	基礎・基本の力の定着を図るために、個に応じた学習指導、ユニバーサルデザインを取り入れた指導の充実を努める。また、年間計画に基づいて学習を進め、指導と評価の一体化を定着させていく。 【べんきょう】		A B C D
3 児童指導	「太田スタンダード」の徹底を図るとともに、見直しにも取り組む。特にあいさつの励行を、学校、保護者、地域が一体となって推進していく。 【あいさつ】		A B C D
6 特別支援 教育	Y-PやZuzieを活用した学級経営や児童理解の研究に引き続き取り組んでいく。特別支援教育校内委員会を通して、全校児童を全職員で育てていく体制をさらに充実させる。 【マインド】		A B C D
保護者・ 地域との 連携	地域コーディネーター主導のもと、「ネットワークおおた」の活動の周知、啓発を進め、学校と保護者、地域住民との協働体制の充実を努める。 【ネットワーク】		A B C D
人材育成 組織運営	全職員による「推進部」を課題解決の場として、合意形成を目指す。「太田スタンダード」はもとより、コンプライアンスの徹底を図る。メンターチームの活性化に引き続き取り組む。		A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果			
学校関係者 評価結果			
評価結果に 対する 学校の見解			
学校経営 中期目標 達成状況			